

社会福祉法人 呉ハレルヤ会

ペタニア たより

呉ベタニアホーム 呉ベタニアホーム長迫 ハレルヤ ユアネーム
tel:0823-26-8844 tel:0823-23-2003 tel:0823-32-5980 tel:03-6915-1347



宮城 ヤーンアライブの方々から贈られたひざかけ

呉ベタニアホームが創立20周年を迎えられ、心よりお喜び申し上げます。思い返しますと、この町にキリスト教を土台とした高齢者福祉施設が建てられることは、呉の諸教会にとって長年のヴィジョンと祈りでありましたが、20年前、神様の導きにより、この本通りの目抜き通りに立派な呉ベタニアホームが建てられました。あの開所式の感動は今も忘れることができません。あれから20年、ベタニアホームの働きは祝され、事業は拡大されてきましたが、20周年と言う節目を迎えられたこの時、神様の感謝と共に、法人の理念であります「人にしてもらいたいと思うことを人にもしなさい」(ルカ6:31)というキリストの愛に倣う生き方にもう一度心を向けていただき、新しい思いで更なる成長へと進んでいただきたいと思います。

ところで、教会やキリスト教の施設ではベタニアの理念にもありますように、隣人愛が



呉ナザレン教会 牧師
松田 基子

開設記念礼拝メッセージ イエス・キリストの愛に倣う

20年勤務を感謝して

施設長 宮岡 尚子

神様の恵みと憐れみにより、また周りの方々の忍耐とご指導により施設開設時から勤めることができました。心より感謝します。さらに20年勤務のお祝いとしてシンガポールに研修旅行まで行かせていただきました。ありがとうございます。



呉ベタニアホームは呉市の牧師、信徒の方々の「呉の地に神様のご栄光を顕す福祉施設を」という長年にわたる祈りと献金により20年前に建てられました。先輩方の尊い祈りに込められた思いを忘れないで、今後も業務に臨んでいきたいと思えます。また、神様の恵みを分かち合うために、ケアハウスにおいて聖書を読み、讃美と祈りの時を持ち始めました。

創立20周年を迎えて

理事長 佐藤 孝義

呉ベタニアホームが誕生して20年が経過しました。その間、多くの方々の祈りや献金支援に支えられて来ました。

現場で働いてこられた職員の方々に感謝致します。厳しい環境の中、个性的特徴が異なり、時には難しい人に対応することは、本当にご苦勞なことです。笑顔を絶やさず、研修で積んだ専門性をもって、仕事に励んで居られる事は、真に感謝に堪えません。

更に私自身、サ高住ハレルヤに居住している者として、有り難いと思うことは、住んでいる場所です。昔、イギリスで産業革命が起きた頃、田舎から都会に労働者が集中し、スラム街ができ、非行や犯罪が増え、社会防衛的懲罰的目的のために、施設が人里離れた辺鄙な場所にあったことを思い出します。呉ベタニアホームは、それとは対照的に、街の真ん中で、自然豊かな環境で、生活にとても便利な所にあります。買い物も、郵便局も、市役所も、病院も、すぐ近くで歩いて行けます。献金やボランティアで、法人の土台を作った下さった方々に、心からの感謝を申し上げます。

ご献金を

感謝感謝申し上げます

二〇一七年十月〜二〇一八年九月 敬称略

- 穂村恵吉／アライアンス吉浦キリスト教会／
- 荒川美穂子／伊賀鮎美／石本百合子／
- 出雲千里／岩城公順／岩崎史子／
- 井上孝雄／好美／遠藤征子／大島順子／
- 沖本隆次／尾田眞智子／加藤昌子／
- 河上啓子／木谷茂美／キリスト教会・広島
- 災害対策室 呉ボランティアセンター／
- 久保寿彦／久保千津美／久保田／
- 引越のケイト／五樹本昭治／児玉亨・雪江／
- 坂江亨子／坂野武司・淳子／坂本弘子／
- 里村佳子／サランの会／品川みゆき／
- 大道清志／武田久美子／立花エイ／
- 田中直樹／谷本久江／堤千里／中川信江／
- 中村正司／中西巖／野口睦子／濱田牧子／
- 深本国夫／藤井伸子／藤本貞子／藤原滋子／
- 細田俊子／堀美子／松田基子／
- 松元保羅 孝子／丸子紀子／政所邦明／
- 三浦一枝／宮岡尚子／望月ハズエ／
- 森山和子／山内加代子／山田美恵子／
- よしの味噌／渡利真／

社会福祉法人 呉ハレルヤ会 <http://www.bethania.or.jp/>

〒737-0046 広島県呉市中通4丁目9番17号 理事長 佐藤孝義

勤続5年10年20年表彰者紹介(敬称略)
おめでとうございます。



- 延田健一 (勤続5年)
- 松岡夏枝 (勤続10年)
- 宮岡尚子 (勤続20年)
- 村上賢 (勤続10年)
- 里村佳子 (勤続20年)
- 前川芽衣 (勤続5年)
- 金沖由宇子(勤続5年)
- 奥郁子 (勤続5年)
- 荒光香 (勤続5年)
- 谷本愛美 (勤続5年)
- 鈴木圭子 (勤続5年)
- 水西聡己 (勤続5年)
- 難波証一 (勤続5年)
- 石田美鈴 (勤続5年)
- 梶原里美 (勤続5年)

語られます。確かに私たちは頭では隣人を愛し、接する全ての人々に愛をもって接したいと願ってはいるのですが、現実の人間関係においては、自己中心、自己優先になり、世間の常識や評価に強く影響されて、そういう心の眼鏡を掛けたまま人々に接してしまいがちです。そのような私たちにマザーテレサの歌「主よ、今日一日、人というだけで、どんな人々も愛するために、私の心をお望みでしたら、今日、私のこの心をお使いください」は心が問われる歌詞です。「人というだけでどんな人々も愛する」、それは歌い、口で言うことは易いことですが、心からそうすることはとても難しいことです。そんな私たちにとってイエス様こそ做すべきお方です。

ルカ19章には、一世紀のローマ帝国社会で属領とされた祖国の同胞から、ローマへ納める税金を取る徴税人となり、同胞から卑しめられ、それに抗して金を力としながらも心の底には寂しさを抱えていたザーカイがイエス様に出会って新しい人間に変えられたことが記されています。ザーカイもイエス様を一目見たいと群集がイエス様を取り巻いている所に駆け付けましたが、人垣に阻まれて見ることができませんでした。彼は先回りして高い木に登り一行を待ちました。イエス様はその木の下まで来られると、

上を見上げて下から「ザーカイ、急いで降りてきなさい。今日はぜひ、あなたの家に泊まりたい」と声をかけられました。イエス様は全ての人をかけがえのない尊い存在として見ておられました。ザーカイはイエス様から名前を呼ばれ、目と目が合うと、そこに人を人というだけで愛されるイエス様の深い愛を感じました。その時、今まで自分は人より金持ちだという高い木に登り、周りを見下し見返していた心がいつべんに折れて、彼は下に降りてきて、イエス様を自分の家に招き入れました。ザーカイの心はイエス様からの愛で満たされると、イエス様への愛、人々への愛が溢れてきて、今まで自分を支えてきたお金も他者のために使うことができるようになります。

人はイエス様に出会い、イエス様の愛を受けることによって、自分にその尊さを回復するばかりか、イエス様の愛に応えて、人というだけで、どんな人も愛せる様にと押し出されていくのです。私たちもイエス様に倣い、下からその人を神に造られた尊い存在として尊び愛して参りましょう。

このベタニアホームが建てられた目的、その理念に従ってキリストの愛に做う施設でありますようにと心から願い、神様の祝福をお祈り致します。



クリスマスおめでとうございます。
新年の祝福をお祈りします。 呉ハレルマ会一同

被災する高齢者への支援

統括施設長 里村 佳子

7月7日(土)早朝、スタッフから「道が川のようになっています」と電話がありました。その後、豪雨の影響で道路が通行止めになり、断水の知らせも入ったのです。

いつ断水してもいいように貯水しましたが、数日経っても断水は解除されませんでした。そんな中、入浴できない高齢者が多くいるのに気がきました。

私たちの施設は断水していませんので、困っている人たちのために施設を開放して、入浴支援をしたいとスタッフに相談すると、快く賛成してくれました。

早速、行政や地域包括支援センターなどに連絡して、入浴できない高齢者やその家族を受け入れたところ、たいそう喜んでいただきました。

さらに、呉地区の福祉施設救済物資拠点として、できる支援をすることにしました。また、海外や全国からのボランティアのために宿泊先として施設を開放しました。

炎天下、過酷な作業に愚痴もこぼさず、讃美歌を歌いながら土砂を取り除くボランティアの姿に、被災した人たちだけではなく私たちも勇気をもりました。

台湾からの留学生

相談員 中 勇人

7月6日、呉ベタニアホームへ台湾からの留学生、張詩悦さんがいらっしゃいました。

上手な日本語でご利用者と笑顔で話をされ、「広島の方が難しい」と、悩んでいたのも印象的です。

台湾のことを皆さんに知って欲しい、とケアハウスとデイサービスのご利用者へ向けて台湾の紹介をして頂きました。呉市と台湾の基隆市が姉妹都市であることにも触れ、国際交流の良い機会となったと思います。

西日本豪雨の大変な時期で、十分な歓迎は出来ませんでしたが、張さんにはたくさん助けて頂きました。ありがとうございました。



張詩悦さんと発表の様子



グループバリデーション

計画作成者 新野 香帆

10月14日(日)、グループバリデーションについて施設内の研修会で、研究発表を行いました。

バリデーションとは、認知症の人の感情や経験を認め、共感し、コミュニケーションする方法です。定期的に固定のメンバーで集まり、参加者に役割を持っていただきます。

今回の流れは、①議長の挨拶 ②始まりの歌③議題について話し合い ④ゲーム ⑤おやつ ⑥終わりの歌 ⑦議長の挨拶です。

接待係は、おやつの際に全員へ飲み物を配り、空のカップを受け取られていました。

それぞれ役割に責任を持ち、やりがいを感じているようでした。話し合いでは、哲学的な議題でも意見を出し合い、答えを導き出され、高齢者の内在する力を目の当たりにしました。

初めは全体に緊張感がありましたが、回を重ねると、笑顔に溢れ、場の空気が和んでいきました。更に、参加者全員が互いを気遣う様子が多くなりました。他者への優しい声掛けが増えたのです。実施中は、参加者が穏やかに過ごされ、グループバリデーションの治療の効果を実感しました。また、グループの一体感や信頼関係も深まったのではないのでしょうか。